

木質バイオマス発電で脱炭素推進



受賞を報告する森山社長（中央右）と
広瀬勝貞知事（中央）

環境大臣賞グランプリに

モリシヨウ

モリシヨウグループ（大分県日田市、森山和浩社長）は2月9日に開催された「脱炭素チャレンジカップ2021」で、最優秀の「環境大臣賞グランプリ」に選ばれ、笹川博義環境副大臣より授与された。同グループによる木質バイオマス発電を通じた地元林業家との

連携や日田市内の公共施設・全小中学校などに電力を供給する、木質バイオマス発電を核としたSDGsへの取り組みが高く評価された。

同グループは木質チップ製造と環境リサイクル機械の販売の「日本フォレスト」、木質バイオマス発電を行う「グリーン発電大分」、電力小売事業の「日田グリーン電力」により

構成されている。グループ企業で木質チップ燃料製造から発電、電力の小売事業までを手掛け、日田市発の「電力の地産地消モデル」を実現。発電時に発生する温排水を農業への熱利用として隣接するいちご農家のビニールハウスへ供給する他、自社の木質チップ工場に供給する電気を非化石証書の活用により再エネ100%に切り替

えた。昨年には、早生樹の種苗センターを立ち上げ、苗木生産を開始。社有林の確保も進めており、試験林の実証・管理や賦存量の調査、伐採計画等を行う山林事業部を設立するなど業態を拡大し、脱炭素化を推進するとともに森林資源再生の持続可能な循環サイクルを構築した。

脱炭素チャレンジカップは、（社）地球温暖化防止全国ネットが主催し、脱炭素社会の実現に向け、自治体や学校、企業、NPOなどの団体による地球温暖化防止の活動を表彰するもの。今回は全国144団体から応募があり、ファイナリストに選ばれた28団体が同日、それぞれの活動内容を発表し、審査の上、各賞が贈られた。

同社の森山社長は、3月1日に大分県庁を訪れ、広瀬勝貞知事に環境大臣賞グランプリ受賞を報告した。「これまで県からの支援や指導により、事業を通じて地域の皆さまに貢献できていることが今回

の受賞につながった」とし、「これからもグループ一丸となって地域社会に貢献し、持続可能な社会の実現に寄与していく」と話した。

2021年3月15日（月）
循環経済新聞 5面